

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	クオール上大岡教室		
○保護者評価実施期間	令和8年1月23日		～ 令和8年2月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	令和8年2月20日		～ 令和8年3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月19日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別と集団を組み合わせたプログラムの提供。	集団と個別を組み合わせるプログラムを行っているため、個別特化の内容と、集団における内容をそれぞれ設定して取り組むことができる。	プログラムの内容が固定化しないよう、教材や書籍などを充実にさせていく。
2	エビデンスに基づいた支援とその効果検証。	応用行動分析、認知行動療法、TEACCH、PECS等の知識、経験に基づいたプログラムを提供している。また、データを収集することで効果検証を行っている。	座学と実践を組み合わせた研修の充実。
3	保護者に寄り添った支援。	未診断の「疑い」段階の2歳児からの受け入れを行っている。親子通所をしてもらう期間を設け、保護者の不安の受け止めや、子育てに関する助言などを行っている。グループでのペアレントトレーニングを行い、保護者同士の交流の機会、学びの機会を提供している。	より専門的な保護者への相談援助を行うことができるような研修の充実。 発達年齢に特化したペアレントトレーニングの実施。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の社会資源を利用することや、地域のこどもの交流機会の少なさ。	公園へ出かけるなどの活動は行っているが、交流の機会を意図的に設けたことがない。また、そのニーズがあるかの把握が行っていない。	まずは「近隣の散歩で挨拶をする」といったステップから始めてみる。また、利用者の家族を招くイベントを開くことなどを検討する。
2	保護者同士が交流を持つ機会の少なさ。	保護者同士で交流することへの希望がどの程度あるか、また、どのような交流を希望しているかなどの把握ができていない。	職員が主導になってしまうと「教える側」となってしまう可能性があるため、ペアレントメンターの派遣を依頼するなどして、「先輩保護者の話を聞く」などの機会を持つことを検討する。
3	子どもの特性や診断を十分に受け入れられていない、あるいは葛藤の中にある保護者（障害受容期）への支援の提供。	保護者の思いを聞く傾聴のフェイズがおろそかになっているのかもしれない。	傾聴と保護者への寄り添いを意識的に行っていくことを事業所全体で共有していく。また、受容の過程の保護者の心理フェイズを職員全体で学習する。